

## 特定課題

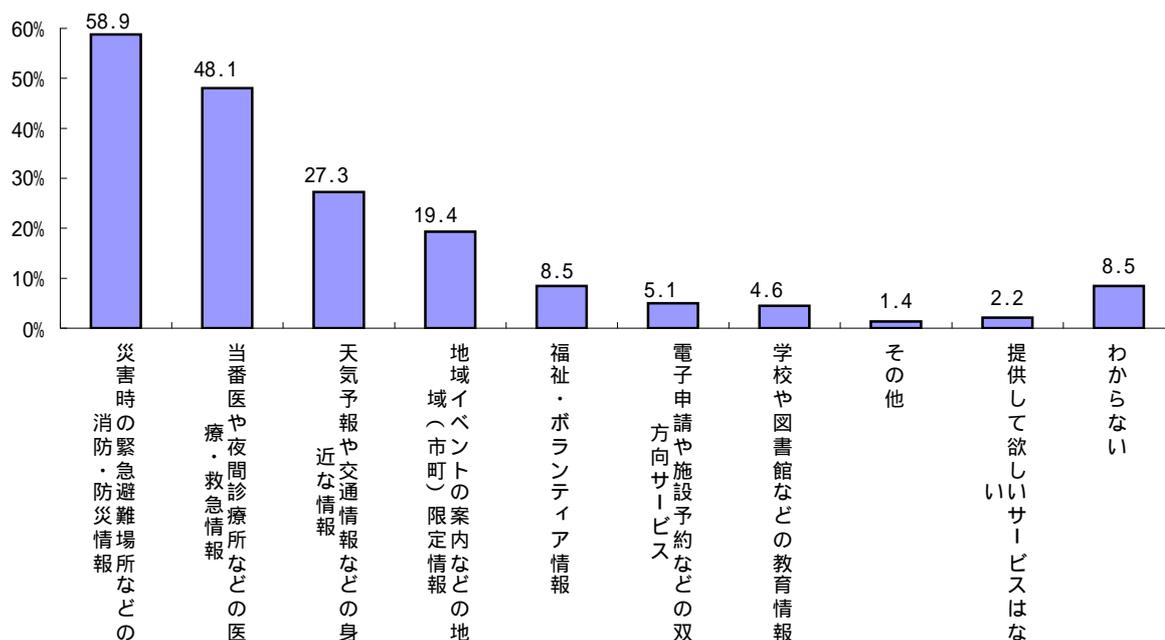
### 問27 地上デジタル放送の利活用

地上デジタル放送により、これまでの番組が高画質・高音質で視聴できるだけでなく、気象や生活情報などのデータ放送、屋外でも視聴できるワンセグ放送といった新しい機能が利用可能となります。

あなたは、地上デジタル放送を活用して、どのような情報やサービスが提供されることを期待しますか。次の中から二つまで選んで番号を で囲んでください。

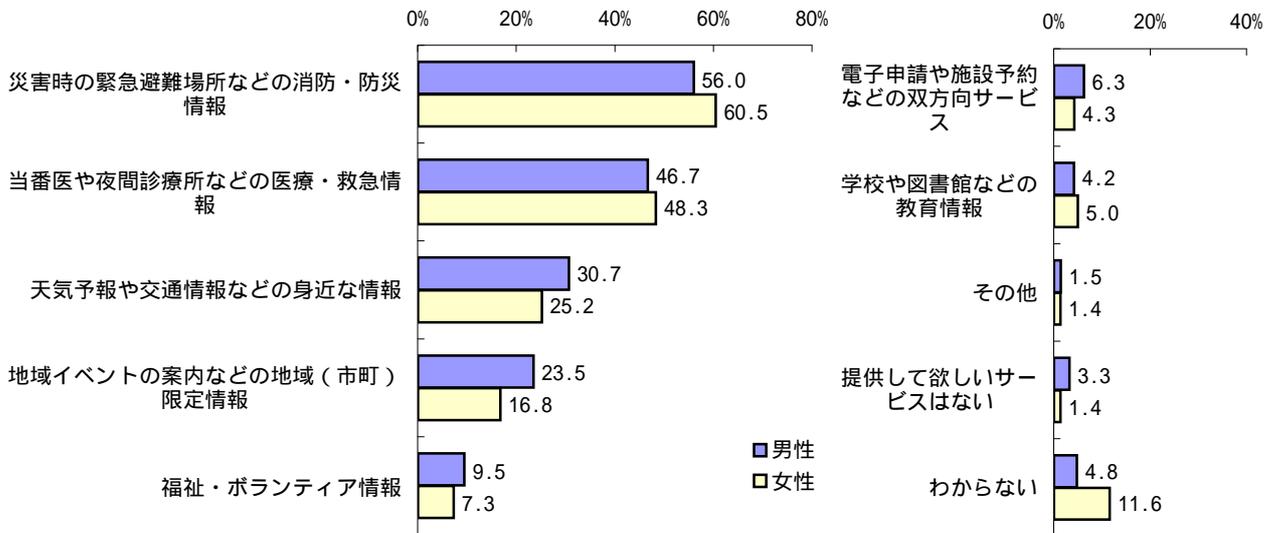
|                           | (%)  |
|---------------------------|------|
| 01 災害時の緊急避難場所などの消防・防災情報   | 58.9 |
| 02 当番医や夜間診療所などの医療・救急情報    | 48.1 |
| 03 学校や図書館などの教育情報          | 4.6  |
| 04 福祉・ボランティア情報            | 8.5  |
| 05 天気予報や交通情報などの身近な情報      | 27.3 |
| 06 地域イベントの案内などの地域(市町)限定情報 | 19.4 |
| 07 電子申請や施設予約などの双方向サービス    | 5.1  |
| 08 その他                    | 1.4  |
| 09 提供してほしいサービスはない         | 2.2  |
| 10 わからない                  | 8.5  |

地上デジタル放送に期待する情報やサービスについて聞いたところ、「災害時の緊急避難場所などの消防・防災情報」と答えた人の割合が58.9%で最も多く、次いで「当番医や夜間診療所などの医療・救急情報」(48.1%)、「天気予報や交通情報などの身近な情報」(27.3%)、「地域イベントの案内などの地域(市町)限定情報」(19.4%)となっている。



## 【性別】

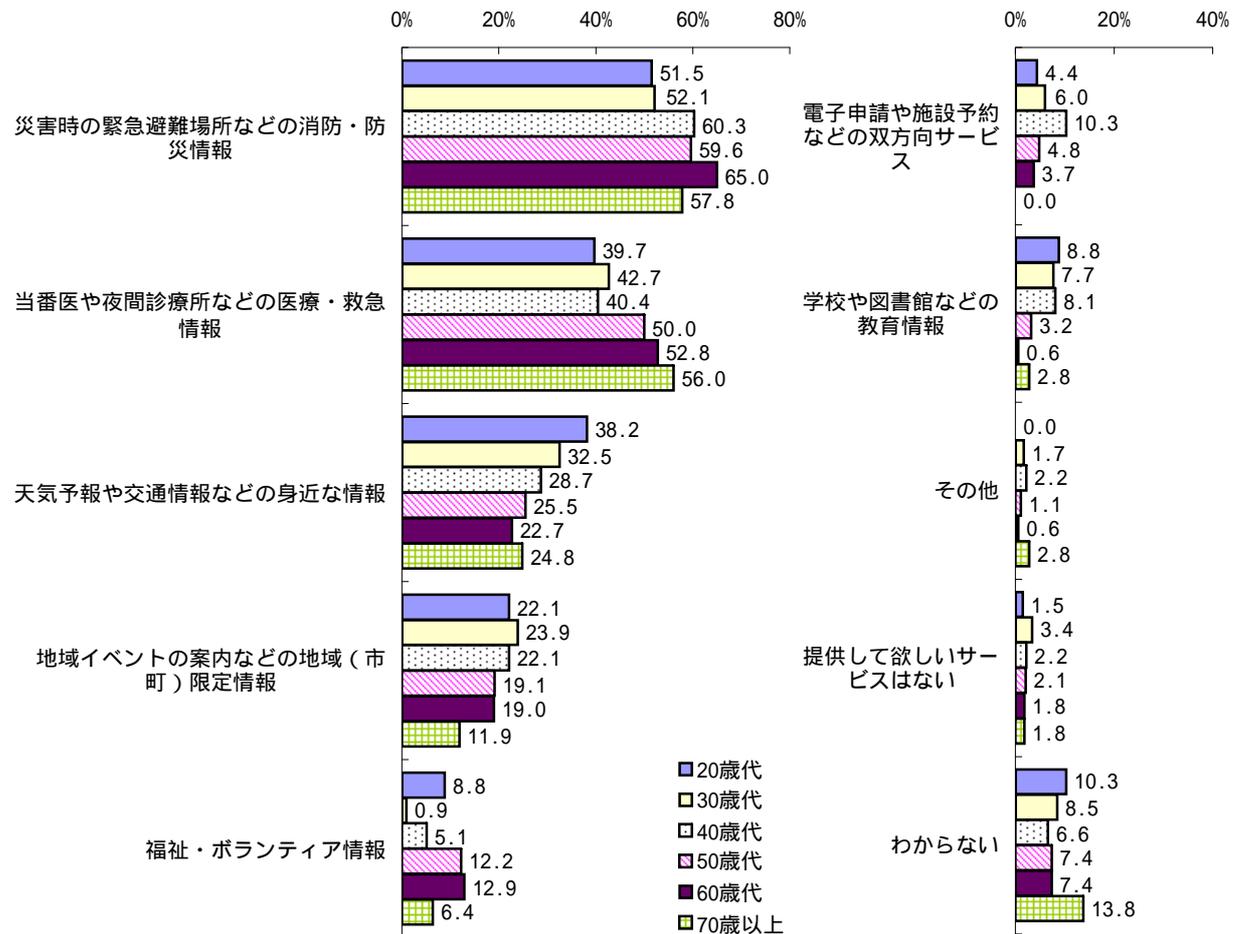
性別にみると、男女とも「災害時の緊急避難場所などの消防・防災情報」と答えた人の割合が最も多く、男性では「天気予報や交通情報などの身近な情報」、「地域イベントの案内などの地域（市町）限定情報」が、女性では「災害時の緊急避難場所などの消防・防災情報」が多くなっている。



## 【年齢別】

年齢別にみると、全ての年齢層で「災害時の緊急避難場所などの消防・防災情報」と答えた人の割合が最も多く、「当番医や夜間診療所などの医療・救急情報」は50歳以上、「天気予報や交通情報などの身近な情報」「地域イベントの案内などの地域（市町）限定情報」は40歳代以下で多くなっている。

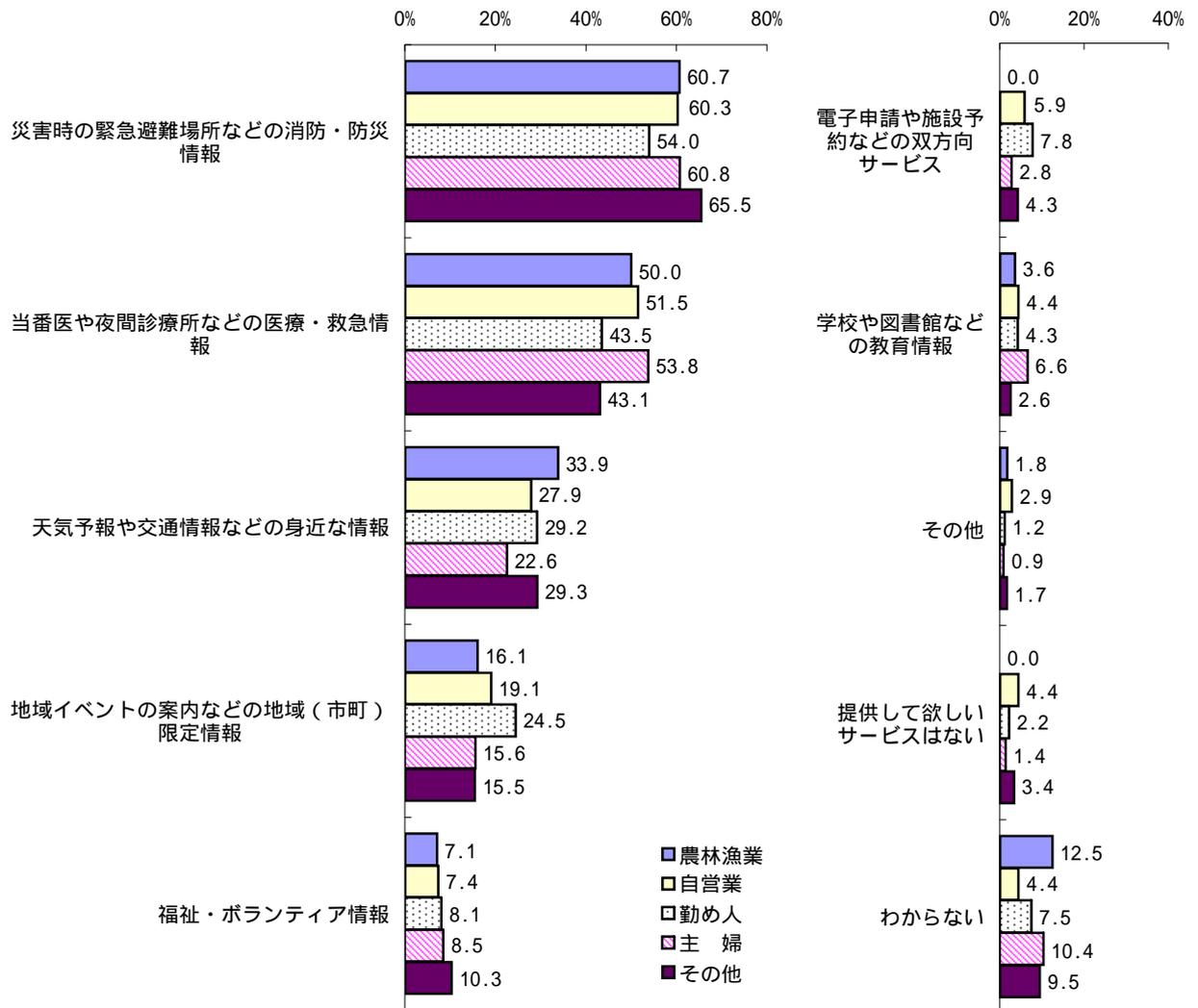
また、「電子申請や施設予約などの双方向サービス」は40歳代で、他の年齢層と比較して多くなっている。



【職業別】

職業別にみると、いずれの職業でも「災害時の緊急避難場所などの消防・防災情報」と答えた人の割合が最も多く、次いで「当番医や夜間診療所などの医療・救急情報」となっている。

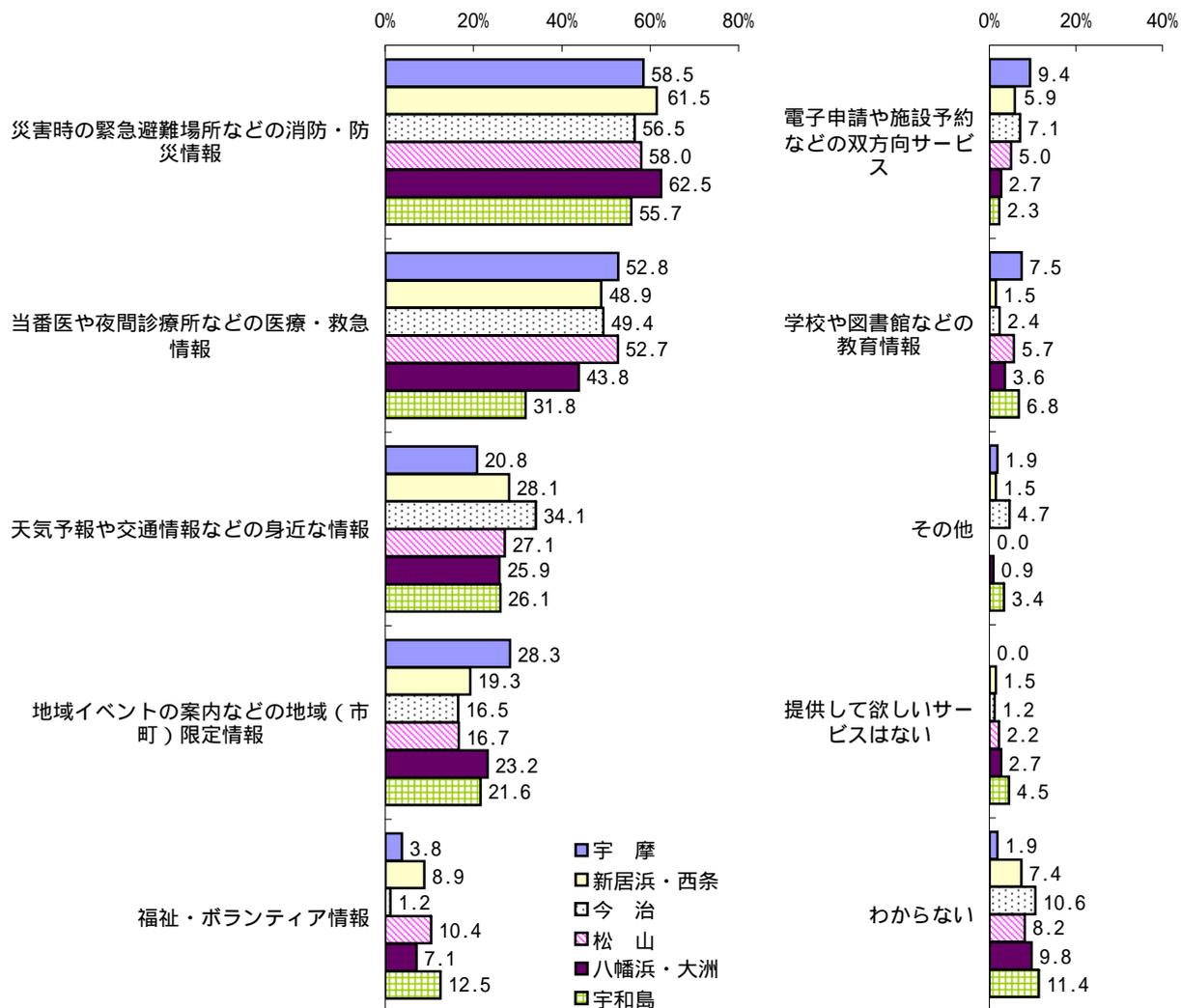
また、「天気予報や交通情報などの身近な情報」は農林漁業で、「地域イベントの案内などの地域（市町）限定情報」及び「電子申請や施設予約などの双方向サービス」と答えた人は勤め人で、「学校や図書館などの教育情報」は主婦で、他の職業と比較して多くなっている。



【生活圏域別】

圏域別にみると、全ての圏域で「災害時の緊急避難場所などの消防・防災情報」と答えた人の割合が最も多くなっており、次いで「当番医や夜間診療所などの医療・救急情報」が多いが、宇和島圏域では他の圏域と比較して低くなっている。

また、「天気予報や交通情報などの身近な情報」は今治圏域で、「地域イベントの案内などの地域（市町）限定情報」、「電子申請や施設予約などの双方向サービス」及び「学校や図書館などの教育情報」と答えた人は、いずれも宇摩圏域で、他の圏域と比較して多くなっている。



## 特定課題

### 問28 男女共同参画社会づくり

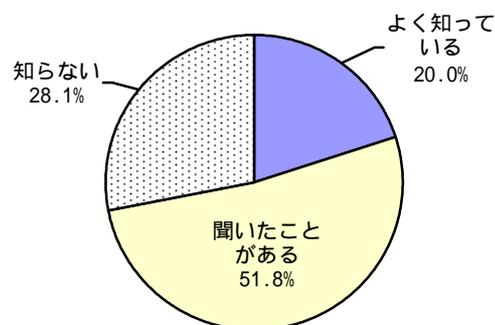
あなたは、「男女共同参画社会」という言葉を知っていますか。次の中から一つ選んで番号を で囲んでください。

|            | (%)  |
|------------|------|
| 1 よく知っている  | 20.0 |
| 2 聞いたことがある | 51.8 |
| 3 知らない     | 28.1 |

男女共同参画社会（男女が互いに人権を尊重し、個性と能力を発揮する社会）を形成していくために、今後県はどのようなことに力を入れていくべきだと思いますか。次の中からあなたの考えに近いものを三つまで選んで番号を で囲んでください。

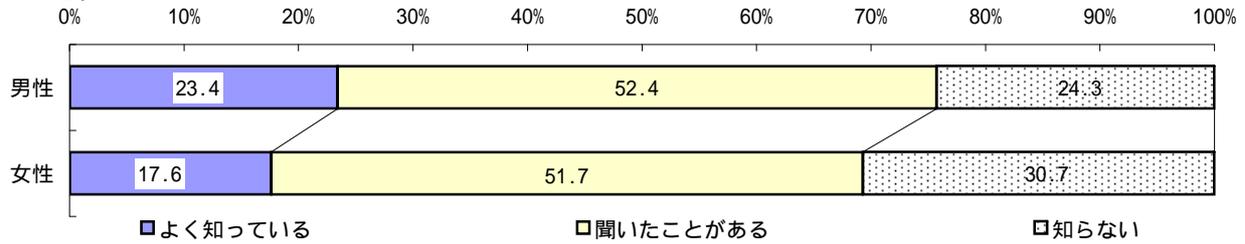
|   | (%)  |
|---|------|
| 01 男女平等を目指した法律・制度の制定や見直しを働きかける                                  | 24.9 |
| 02 女性を政策決定の場に積極的に登用する   | 19.9 |
| 03 各種団体の女性のリーダーを養成する  | 8.5  |
| 04 職場における男女の均等な取り扱いについて周知徹底を行う                                  | 31.1 |
| 05 女性の就労の機会を増やしたり、従来女性の就労が少なかった分野などへの女性の進出を促進するため職業教育や職業訓練を充実する | 33.7 |
| 06 保育の施設・サービスや、高齢者や病人の施設や介護サービスを充実する                            | 54.9 |
| 07 女性の生き方に関する情報提供や交流の場、相談、教育などのセンターを充実する                        | 18.1 |
| 08 学校教育や社会教育・生涯教育の場で男女の平等と相互の理解や教育についての学習を充実する                  | 26.2 |
| 09 各国の女性との交流や情報提供など、国際交流を推進する                                   | 4.3  |
| 10 広報誌やパンフレットなどで、男女の平等と相互の理解や協力についてPRする                         | 7.0  |
| 11 その他  | 1.3  |
| 12 特になし   | 6.6  |
| 13 わからない  | 8.9  |

「男女共同参画社会」という言葉を知っているか聞いたところ、「知っている」と答えた人は7割以上の71.8%〔「よく知っている」(20.0%)、「聞いたことがある」(51.8%)〕であった。



【性別】

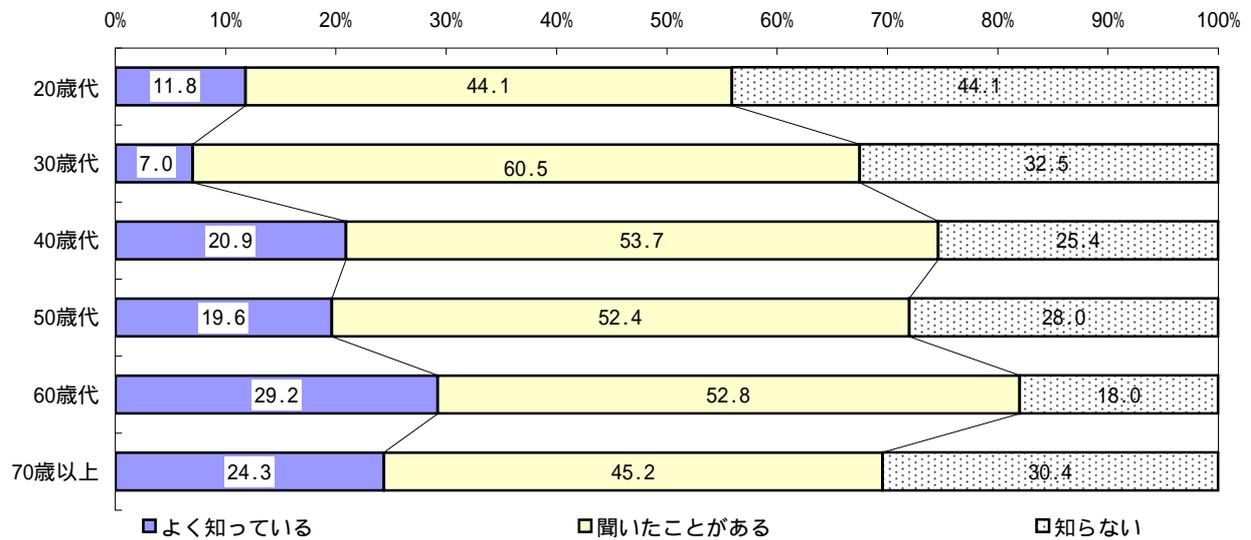
性別にみると、「知っている」と答えた人は男性が75.8%〔「よく知っている」(23.4%)、「聞いたことがある」(52.4%)〕で、女性69.3%〔「よく知っている」(17.6%)、「聞いたことがある」(51.7%)〕より多くなっている。



【年齢別】

年齢別にみると、「知っている」と答えた人の割合は60歳代(82.0%)が最も多く、次いで40歳代(74.6%)、50歳代(72.0%)となっている。

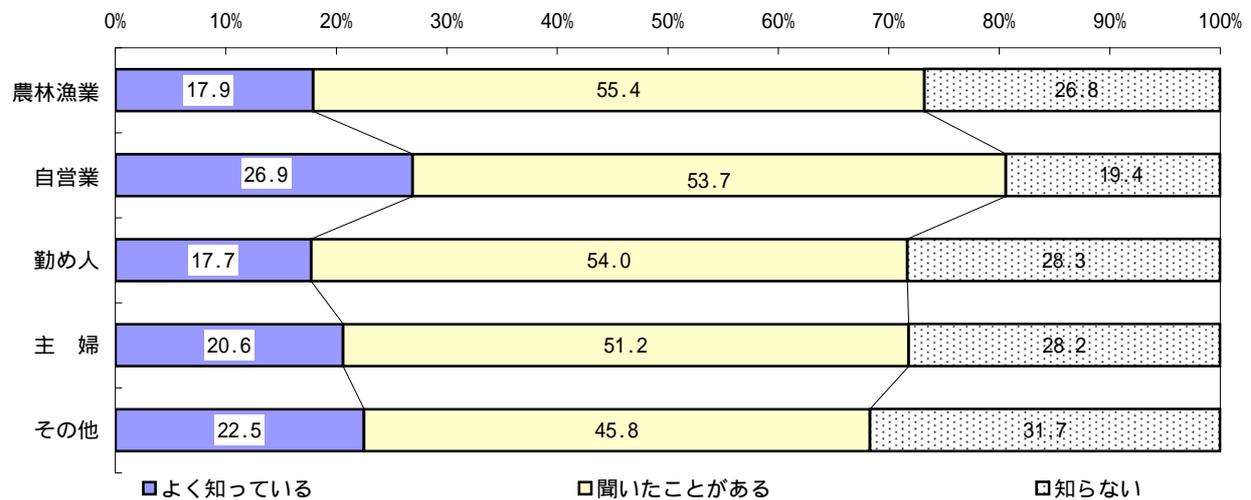
また、「聞いたことがある」と答えた人は30歳代で、「知らない」は20歳代で、他の年齢層と比較して多くなっている。



【職業別】

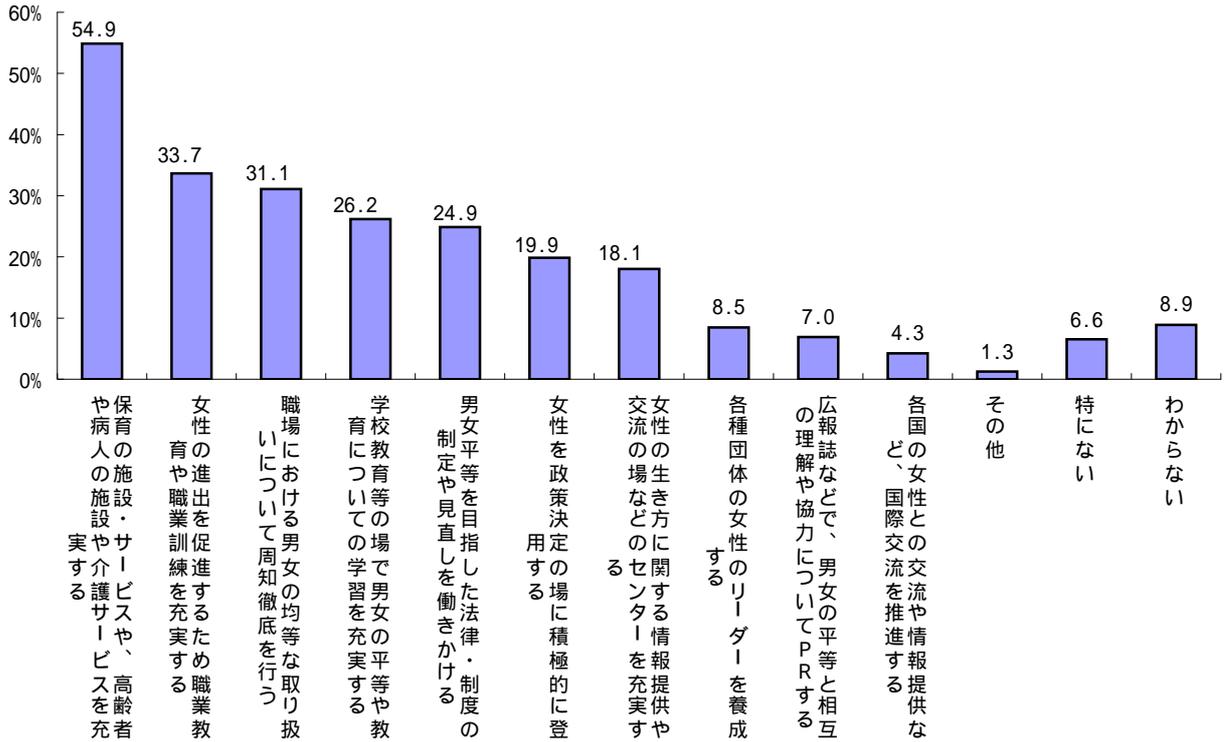
職業別にみると、「知っている」と答えた人の割合は自営業(80.6%)が最も多く、次いで農林漁業(73.3%)、主婦(71.8%)となっている。

また、「聞いたことがある」と答えた人は、農林漁業及び勤め人で多くなっている。



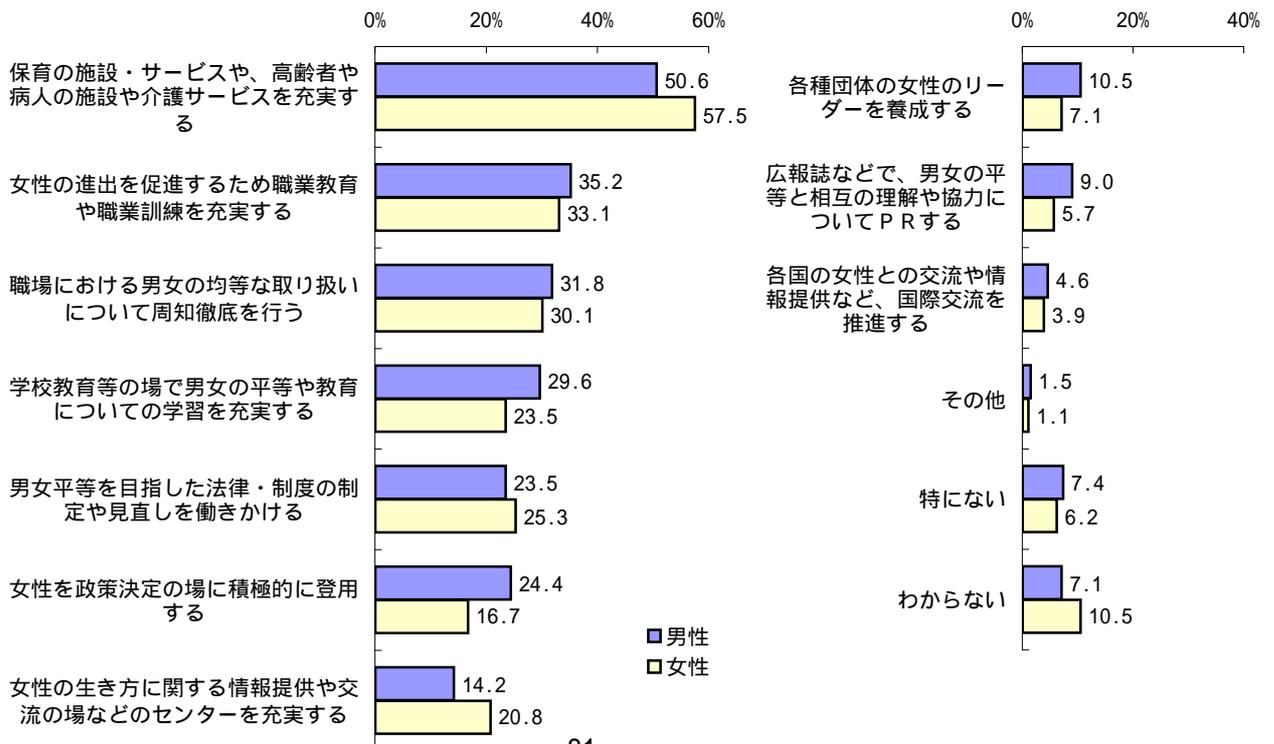
### 《県が今後力を入れていくべきこと》

男女共同参画社会を形成していくために、今後県が力を入れていくべきことについて聞いたところ、「保育の施設・サービスや、高齢者や病人の施設や介護サービスを充実する」と答えた人の割合が半数以上の54.9%と最も多く、次いで「女性の就労の機会を増やしたり、従来女性の就労が少なかった分野などへの女性の進出を促進するため職業教育や職業訓練を充実する」（33.7%）、「職場における男女の均等な取り扱いについて周知徹底を行う」（31.1%）となっている。



### 【性別】

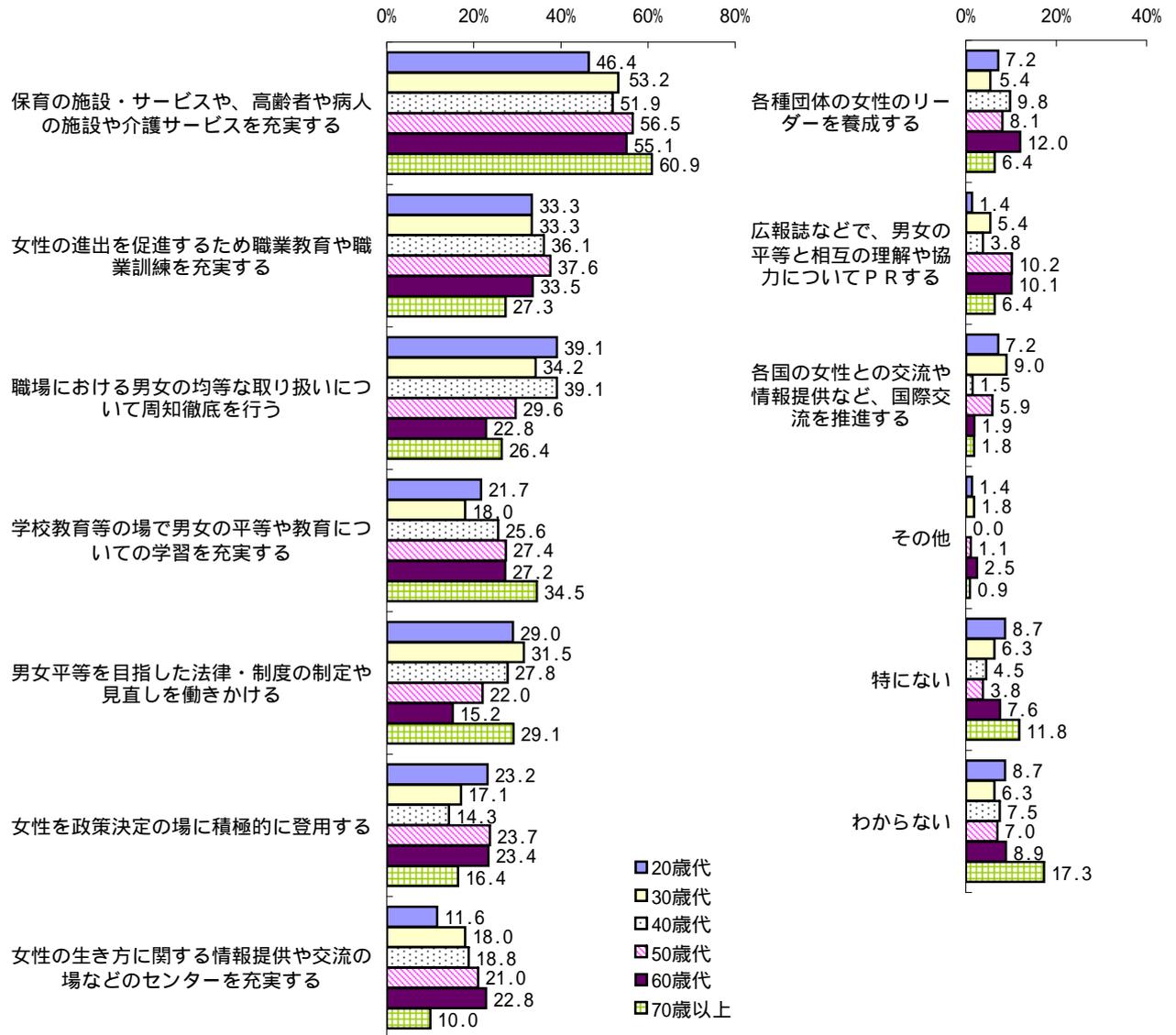
性別にみると、男女とも「保育の施設・サービスや、高齢者や病人の施設や介護サービスを充実する」と答えた人の割合が最も多く、「学校教育や社会教育・生涯教育の場で男女の平等と相互の理解や教育についての学習を充実する」「女性を政策決定の場に積極的に登用する」などは男性が多く、「保育の施設・サービスや、高齢者や病人の施設や介護サービスを充実する」「女性の生き方に関する情報提供や交流の場、相談、教育などのセンターを充実する」などは女性が多くなっている。



【年齢別】

年齢別にみると、全ての年齢層で「保育の施設・サービスや、高齢者や病人の施設や介護サービスを充実する」と答えた人の割合が最も多くなっている。

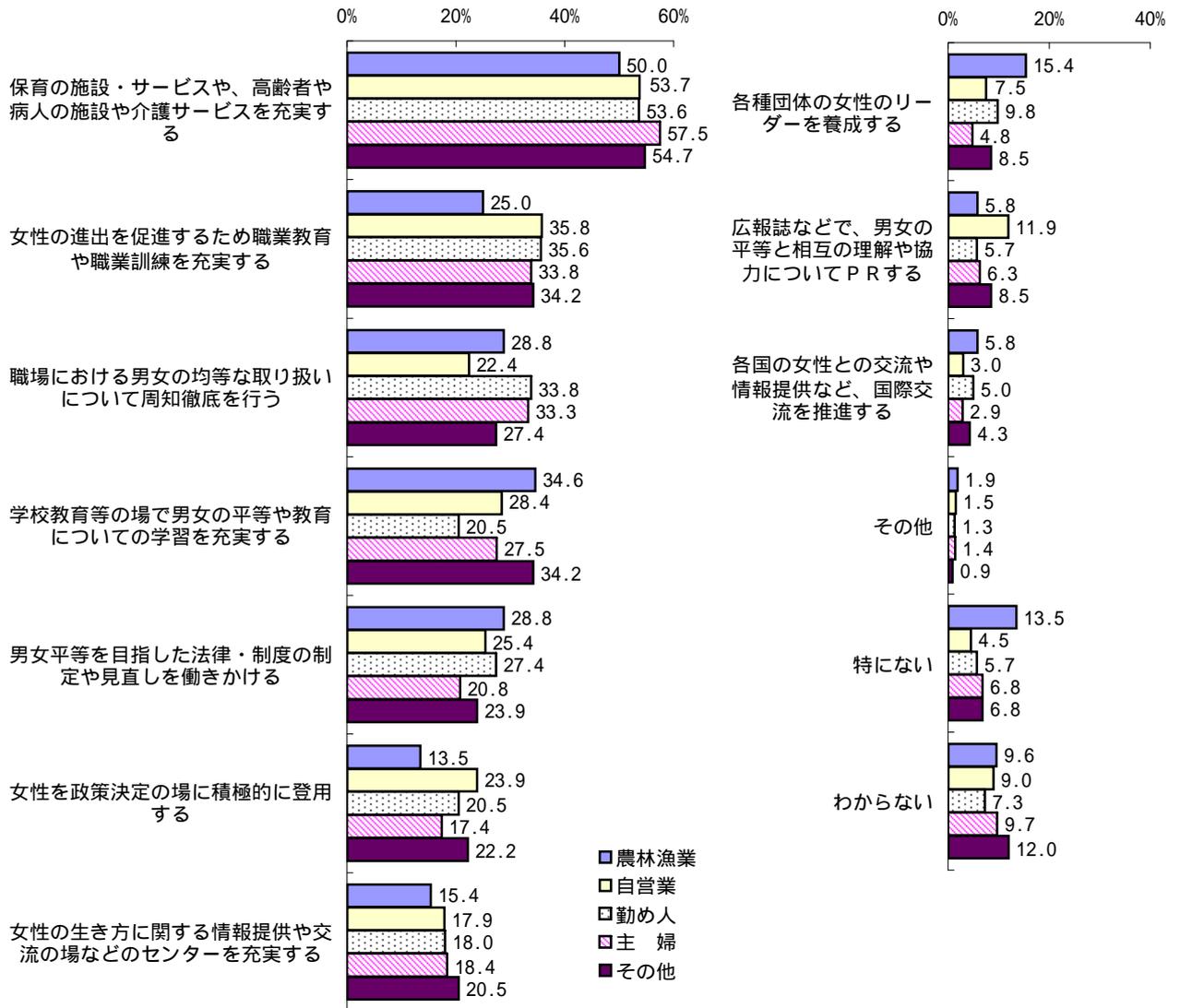
また、「女性の就労の機会を増やしたり、従来女性の就労が少なかった分野などへの女性の進出を促進するため職業教育や職業訓練を充実する」「女性の生き方に関する情報提供や交流の場などのセンターを充実する」は60歳代以下で、「職場における男女の均等な取り扱いについて周知徹底を行う」は40歳代以下で、「学校教育や社会教育・生涯教育の場で男女の平等と相互の理解や教育についての学習を充実する」と答えた人は70歳以上で、他の年齢層と比較して多くなっている。



【職業別】

職業別にみると、全ての職業で「保育の施設・サービスや、高齢者や病人の施設や介護サービスを充実する」と答えた人の割合が最も多くなっている。

また、「女性の就労の機会を増やしたり、従来女性の就労が少なかった分野などへの女性の進出を促進するため職業教育や職業訓練を充実する」は農林漁業を除く全ての業種で多くなっており、「職場における男女の均等な取り扱いについて周知徹底を行う」は勤め人と主婦で、「各種団体の女性のリーダーを養成する」は農林漁業で、「広報誌などで、男女の平等と相互の理解や協力についてPRする」は自営業で、他の業種と比較して多くなっている。



## 特定課題

### 問29 地球温暖化問題

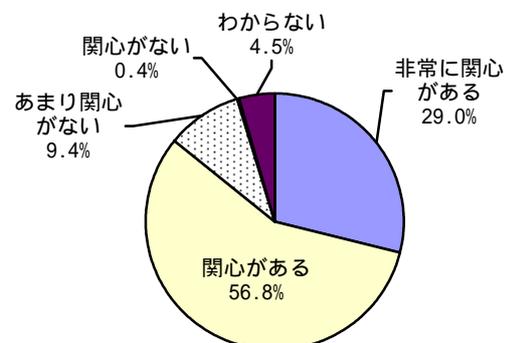
地球規模で広がる様々な地球環境問題(\*)が、近年大きな問題になっていますが、あなたは二酸化炭素などの増加による地球温暖化問題にどの程度関心がありますか。次の中から、一つ選んで番号を で囲んでください。

|            | (%)  |
|------------|------|
| 1 非常に関心がある | 29.0 |
| 2 関心がある    | 56.8 |
| 3 あまり関心がない | 9.4  |
| 4 関心がない    | 0.4  |
| 5 わからない    | 4.5  |

地球環境問題の中でも、石油や石炭などの大量使用に伴う二酸化炭素の増加による地球温暖化問題は、最大の問題として懸念されています。あなたは、地球温暖化の防止に向け、最も必要な取組は何であると考えていますか。あなたの考えに最も近いものを次の中から三つまで選んで番号を で囲んでください。

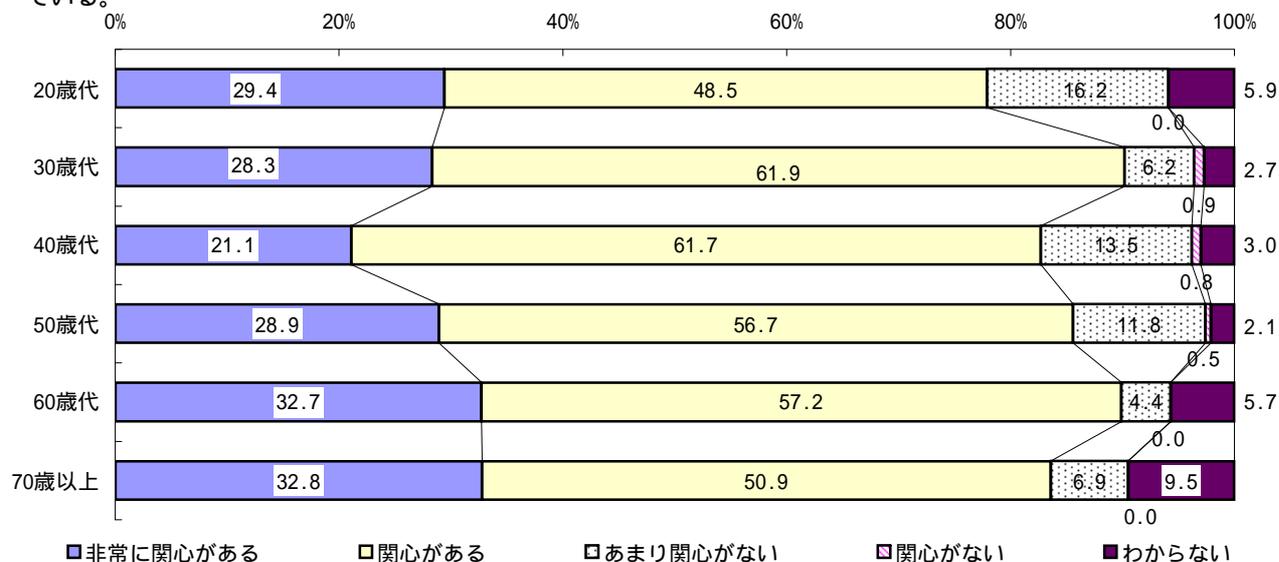
|  | (%)  |
|--|------|
| 01 買い物袋持参やクールビズに代表される省エネルギーの推進などによるライフスタイル・ワークスタイルの見直し | 48.4 |
| 02 エアコンや冷蔵庫など家庭で使用する電気・ガス製品のエネルギー消費効率の改善               | 39.9 |
| 03 工場やオフィスビルにおけるエネルギーの効率的な使用                           | 32.4 |
| 04 電車やバスなど公共交通機関の充実や利用促進によるマイカー利用の抑制                   | 26.1 |
| 05 二酸化炭素の固定化など革新的な環境・エネルギー技術の研究開発                      | 21.1 |
| 06 風力発電や太陽光発電など、発電に伴う二酸化炭素の排出が少ない電源構成への転換              | 32.7 |
| 07 温室効果ガスの排出量に応じて税金を負担する制度の創設                          | 4.9  |
| 08 発展途上国における温室効果ガスの排出削減支援や国際的な排出権取引などの推進               | 10.5 |
| 09 二酸化炭素を吸収、固定化するための森林整備や都市緑化の推進                       | 44.5 |
| 10 環境教育や環境学習の充実、環境に関する様々な情報提供の強化                       | 16.7 |
| 11 その他   | 1.0  |

地球温暖化問題にどの程度関心があるか聞いたところ、「関心がある」と答えた人の割合が85.8%〔「非常に関心がある」(29.0%)、「関心がある」(56.8%)〕、「関心がない」は9.8%〔「あまり関心がない」(9.4%)、「関心がない」(0.4%)〕となっている。



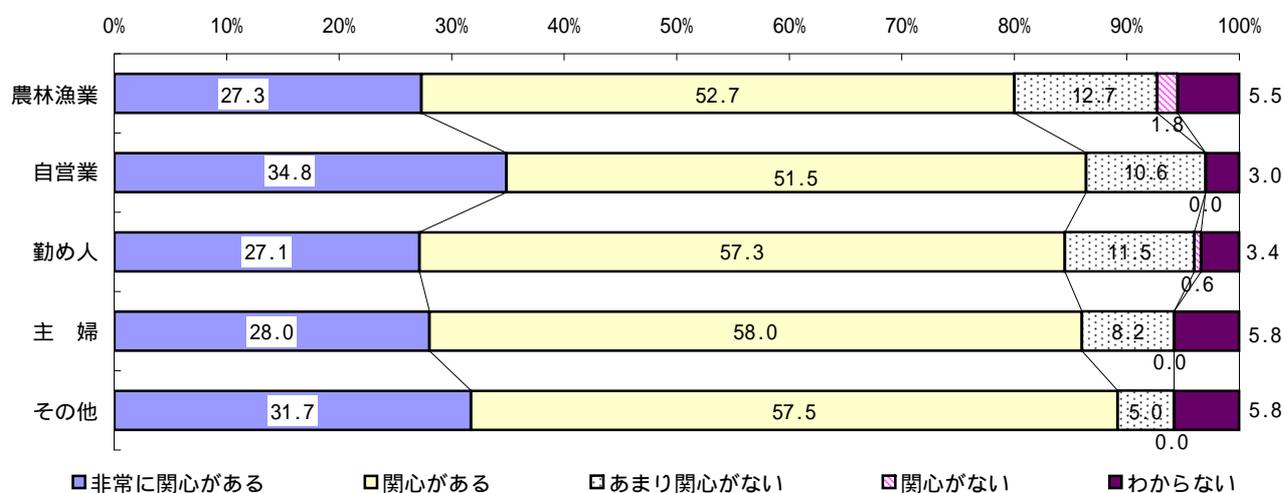
### 【年齢別】

年齢別にみると、「非常に興味がある」または「興味がある」と答えた人の割合は30歳代（90.2%）、60歳代（89.9%）が多く、「興味がない」または「あまり興味がない」は20歳代（16.2%）、40歳代（14.3%）が多くなっている。



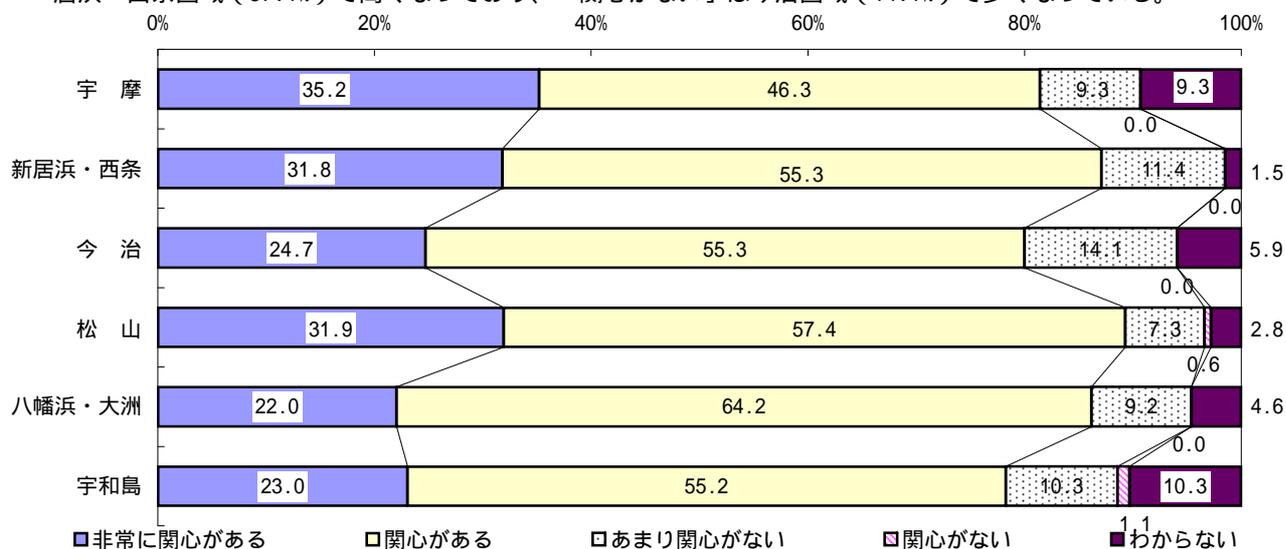
### 【職業別】

職業別にみると、「非常に興味がある」または「興味がある」と答えた人の割合は、その他（89.2%）、自営業（86.3%）及び主婦（86.0%）で多くなっており、「興味がない」は農林漁業（14.5%）で多くなっている。



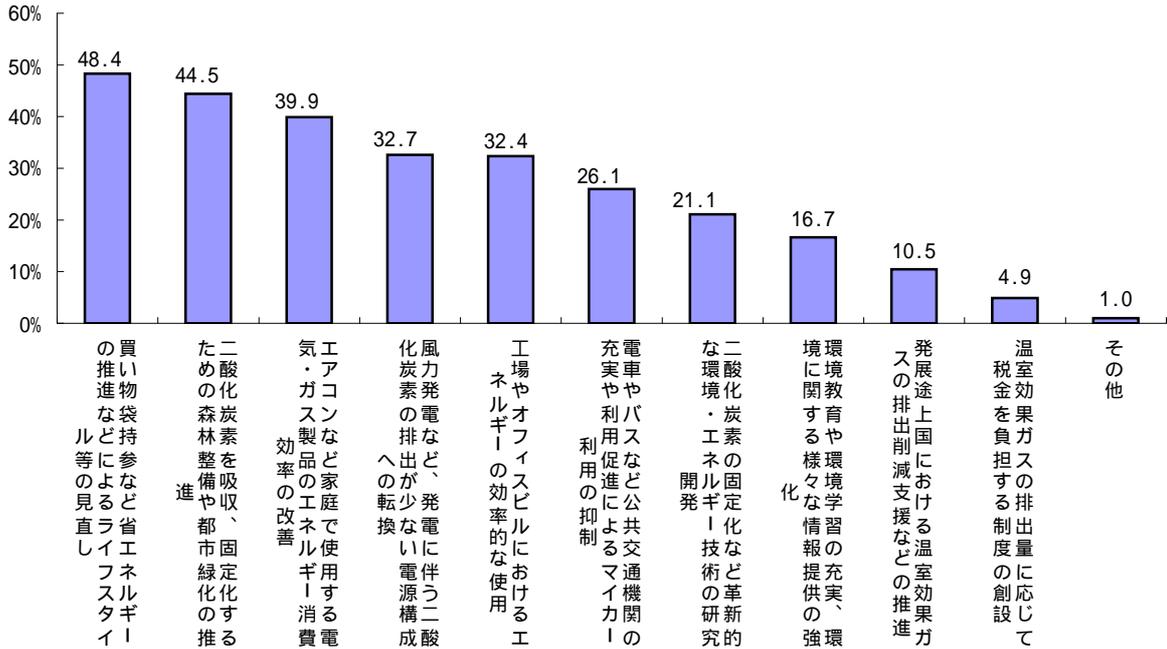
### 【生活圏域別】

圏域別にみると、「非常に興味がある」または「興味がある」と答えた人の割合は、松山圏域（89.3%）、新居浜・西条圏域（87.1%）で高くなっており、「興味がない」は今治圏域（14.1%）で多くなっている。



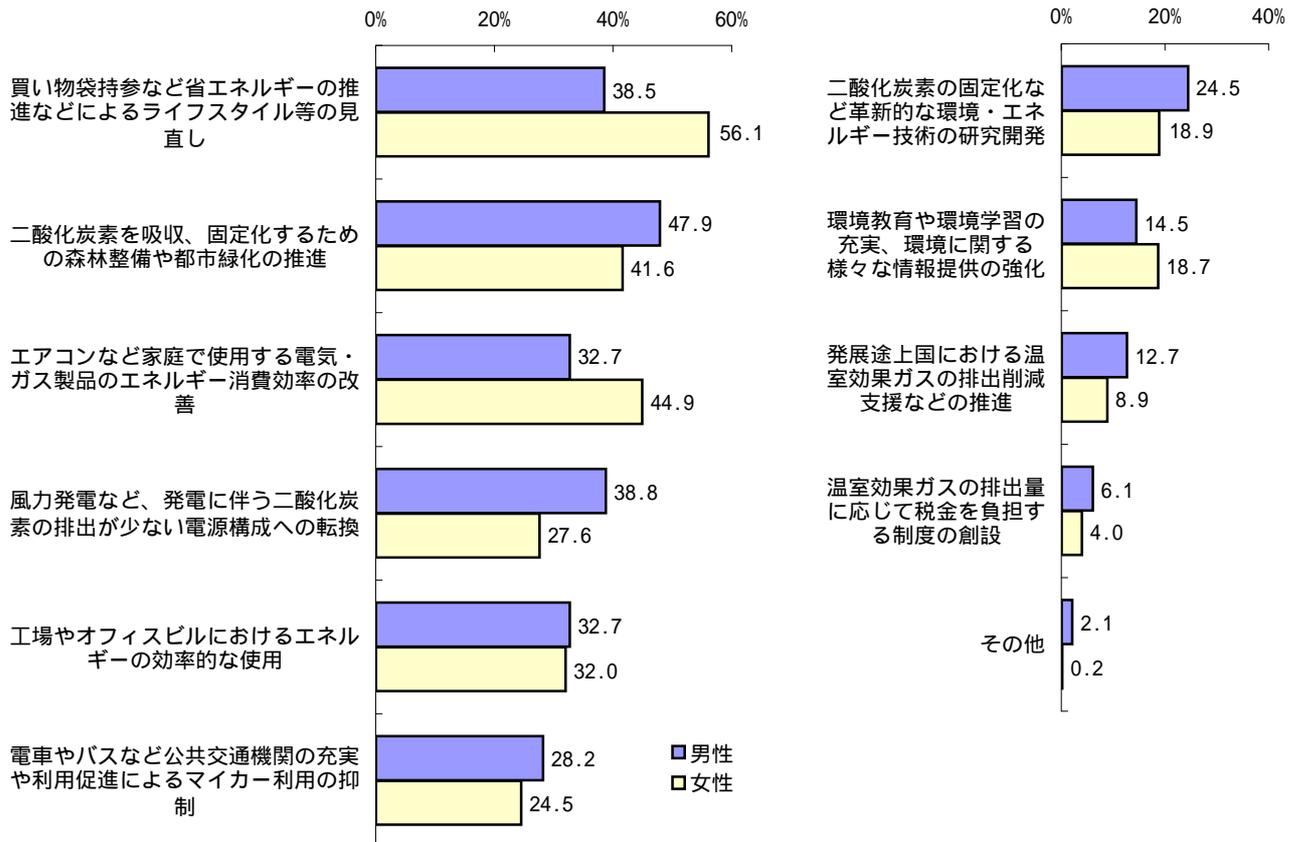
## 《地球温暖化の防止のために必要な取組》

地球温暖化の防止のために、どのような取組みが必要であるか聞いたところ、「買い物袋持参やクールビズに代表される省エネルギーの推進などによるライフスタイル・ワークスタイルの見直し」と答えた人の割合が48.4%で最も多く、次いで「二酸化炭素を吸収、固定化するための森林整備や都市緑化の推進」（44.5%）、「エアコンや冷蔵庫など家庭で使用する電気・ガス製品のエネルギー消費効率の改善」（39.9%）などとなっている。



## 【性別】

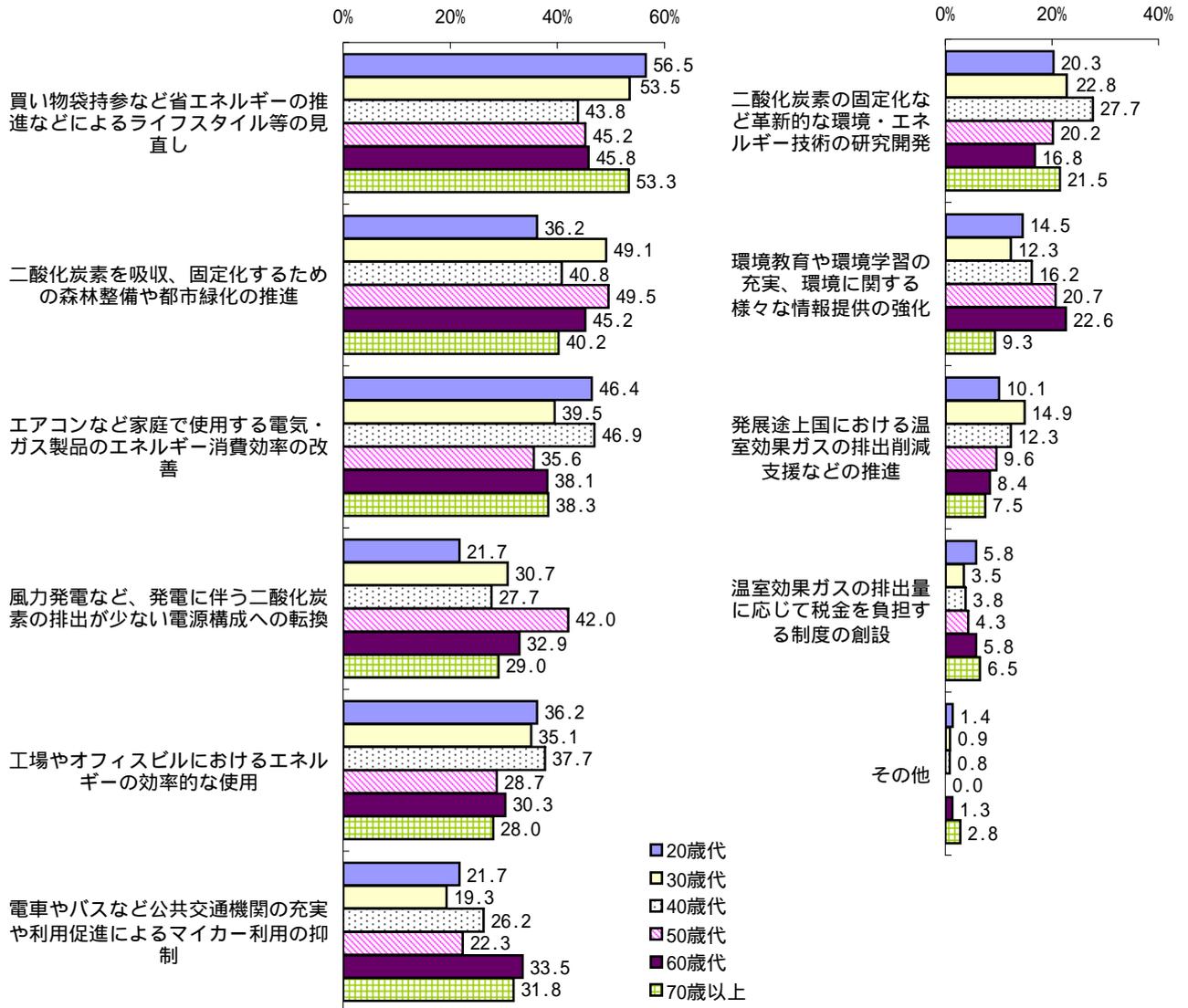
性別にみると、男性では「二酸化炭素を吸収、固定化するための森林整備や都市緑化の推進」や「風力発電や太陽光発電など、発電に伴う二酸化炭素の排出が少ない電源構成への転換」と答えた人の割合が多く、女性では「買い物袋持参やクールビズに代表される省エネルギーの推進などによるライフスタイル・ワークスタイルの見直し」や「エアコンや冷蔵庫など家庭で使用する電気・ガス製品のエネルギー消費効率の改善」が多い。



【年齢別】

年齢別にみると、30歳代以下及び60歳代以上では「買い物袋持参やクールビズに代表される省エネルギーの推進などによるライフスタイル・ワークスタイルの見直し」が、40歳代では「エアコンや冷蔵庫など家庭で使用する電気・ガス製品のエネルギー消費効率の改善」が、50歳代では「二酸化炭素を吸収、固定化するための森林整備や都市緑化の推進」が最も多くなっている。

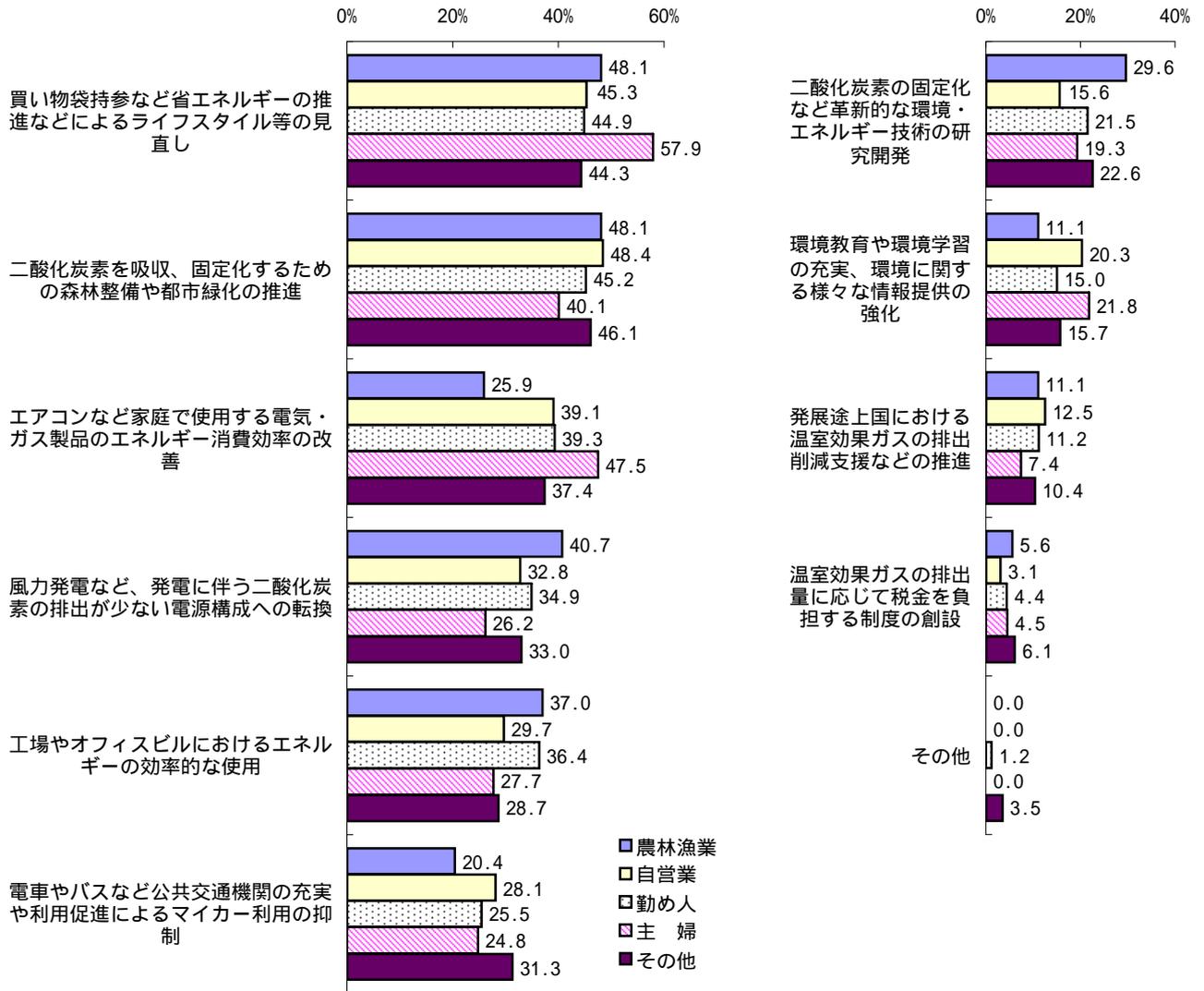
また、「風力発電や太陽光発電など、発電に伴う二酸化炭素の排出が少ない電源構成への転換」と答えた人は50歳代で、「電車やバスなど公共交通機関の充実や利用促進によるマイカー利用の制御」は60歳代以上で、他の年齢層と比較して多くなっている。



【職業別】

職業別にみると、主婦では「買い物袋持参やクールビズに代表される省エネルギーの推進などによるライフスタイル・ワークスタイルの見直し」が、自営業及び勤め人では「二酸化炭素を吸収、固定化するための森林整備や都市緑化の推進」と答えた人の割合が最も多く、農林漁業では、これらの項目が同率で多くなっている。

また、「エアコンや冷蔵庫など家庭で使用する電気・ガス製品のエネルギー消費効率の改善」は主婦で、「風力発電や太陽光発電など、発電に伴う二酸化炭素の排出が少ない電源構成への転換」は農林漁業で、「工場やオフィスビルにおけるエネルギーの効率的な使用」は農林漁業及び勤め人で、他の職業と比べて多くなっている。



## 特定課題

### 問30 ごみの減量化に関する取り組み

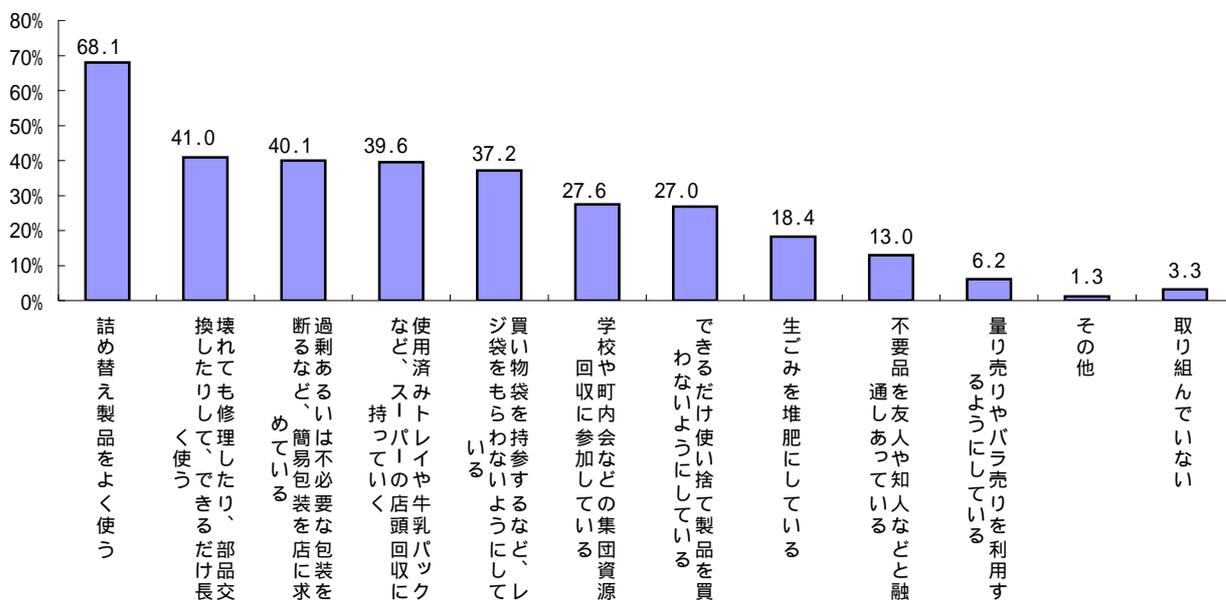
平成19年4月の容器包装リサイクル法の改正により、ごみの減量化への意識が高まりつつありますが、あなたは日頃、ごみを少なくするために心がけていることはありますか。次の中からいくつでも選んで番号を で囲んでください。

|  | (%)  |
|--|------|
| 01 買い物袋を持参するなど、レジ袋をもらわないようにしている            | 37.2 |
| 02 過剰あるいは unnecessaryな包装を断るなど、簡易包装を店に求めている | 40.1 |
| 03 量り売りやバラ売りを利用するようにしている                   | 6.2  |
| 04 できるだけ使い捨て製品を買わないようにしている                 | 27.0 |
| 05 詰め替え製品をよく使う                             | 68.1 |
| 06 壊れても修理したり、部品交換したりして、できるだけ長く使う           | 41.0 |
| 07 不要品を友人や知人などと融通しあっている                    | 13.0 |
| 08 使用済みトレイや牛乳パックなど、スーパーの店頭回収に持っていく         | 39.6 |
| 09 学校や町内会などの集団資源回収に参加している                  | 27.6 |
| 10 生ごみを堆肥にしている                             | 18.4 |
| 11 その他                                     | 1.3  |
| 12 取り組んでいない                                | 3.3  |

スーパーや生協などでレジ袋を有料化する動きがありますが、どう思いますか。次の中から一つ選んで番号を で囲んでください。

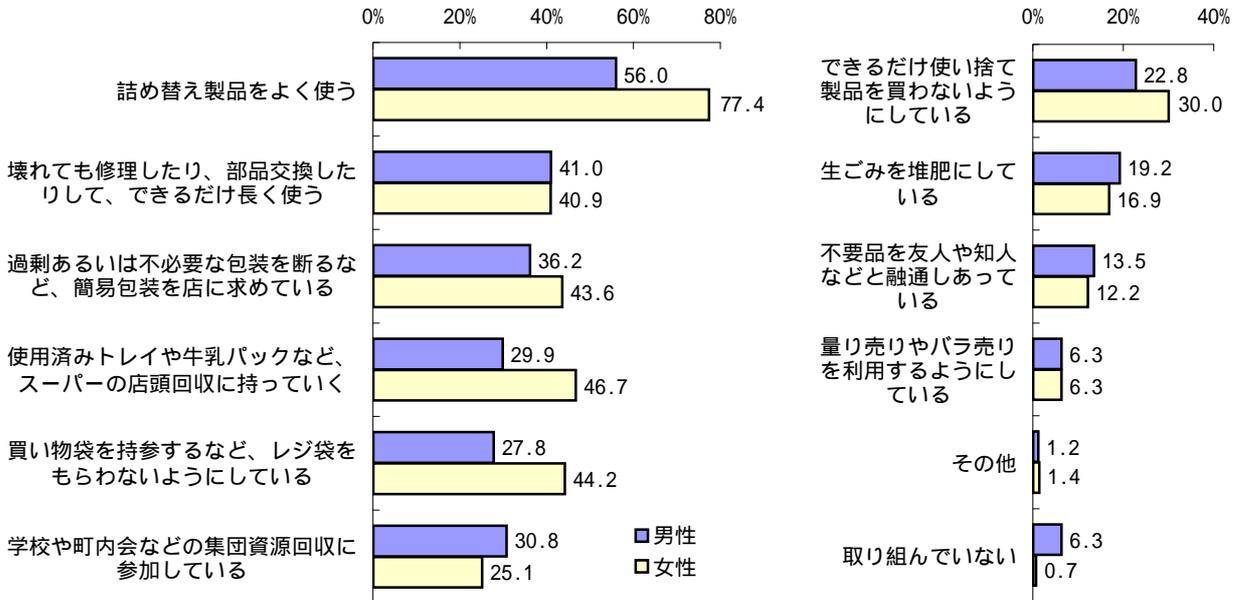
|              | (%)  |
|--------------|------|
| 1 有料化すべきである  | 43.0 |
| 2 有料化すべきではない | 26.3 |
| 3 どちらでもない    | 28.9 |
| 4 知らない       | 1.8  |

日頃ごみを少なくするために気をつけていることについて聞いたところ、「詰め替え製品をよく使う」と答えた人の割合が68.1%と最も多く、次いで「壊れても修理したり、部品交換したりして、できるだけ長く使う」(41.0%)、「過剰あるいは unnecessaryな包装を断るなど、簡易包装を店に求めている」(40.1%)、「使用済みトレイや牛乳パックなど、スーパーの店頭回収に持っていく」(39.6%)などとなっている。



【性別】

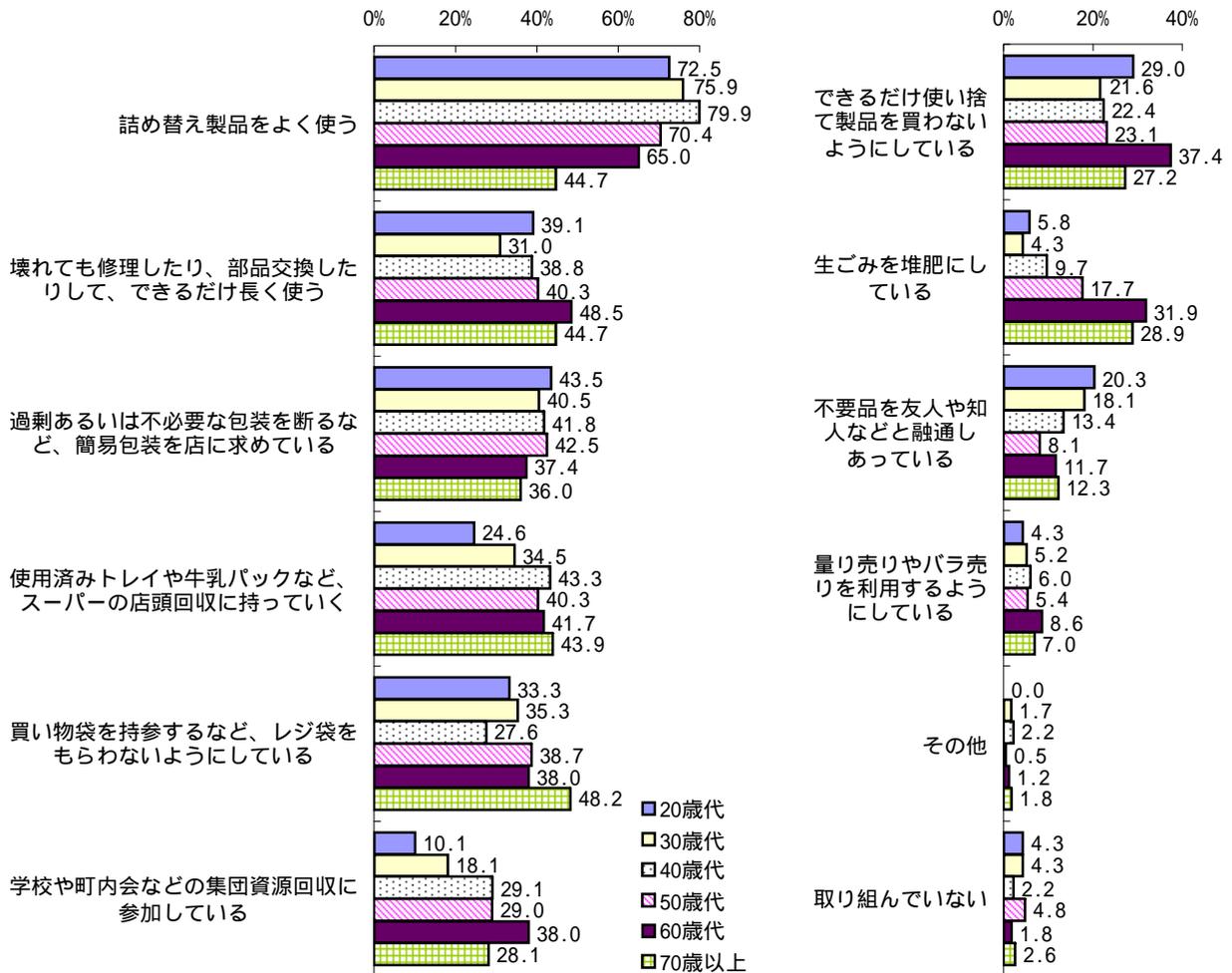
性別にみると、男女とも「詰め替え製品をよく使う」と答えた人の割合が最も多い。また、「学校や町内会などの集団資源回収に参加している」「生ごみを堆肥にしている」は男性で多く、「使用済みトレイや牛乳パックなど、スーパーの店頭回収に持っていく」「買い物袋を持参するなど、レジ袋をもらわないようにしている」は女性で多くなっている。



【年齢別】

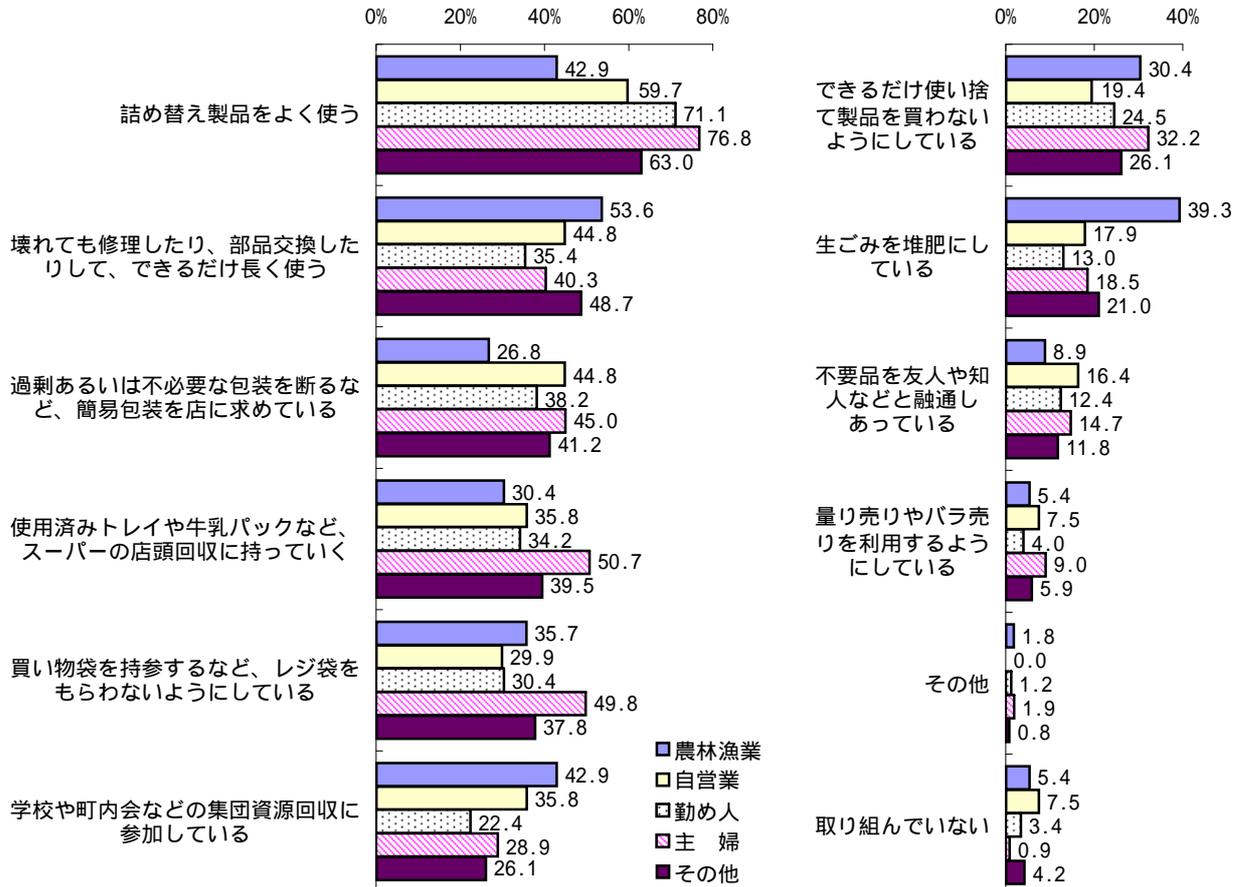
年齢別にみると、60歳代以下では「詰め替え製品をよく使う」が、70歳以上では「買い物袋を持参するなど、レジ袋をもらわないようにしている」と答えた人の割合が最も多く、「過剰あるいは unnecessaryな包装を断るなど、簡易包装を店に求めている」はいずれの年齢層でも多くなっている。

また、「できるだけ使い捨て製品を買わないようにしている」は60歳代で、「生ごみを堆肥にしている」は60歳代以上で、他の年齢層と比較して多くなっている。



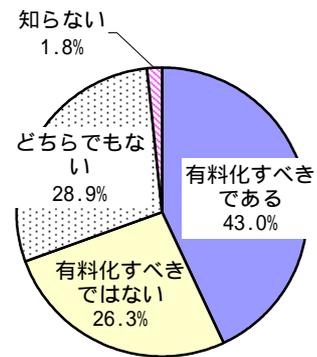
【職業別】

職業別にみると、農林漁業では「壊れても修理したり、部品交換したりして、できるだけ長く使う」が、農林漁業以外の職業では「詰め替え製品をよく使う」と答えた人の割合が最も多くなっている。  
 また、「過剰あるいは unnecessaryな包装を断るなど、簡易包装を店に求めている」は自営業及び主婦で、「買い物袋を持参するなど、レジ袋をもらわないようにしている」は主婦で、「生ごみを堆肥にしている」は農林漁業で、他の職業と比較して多くなっている。



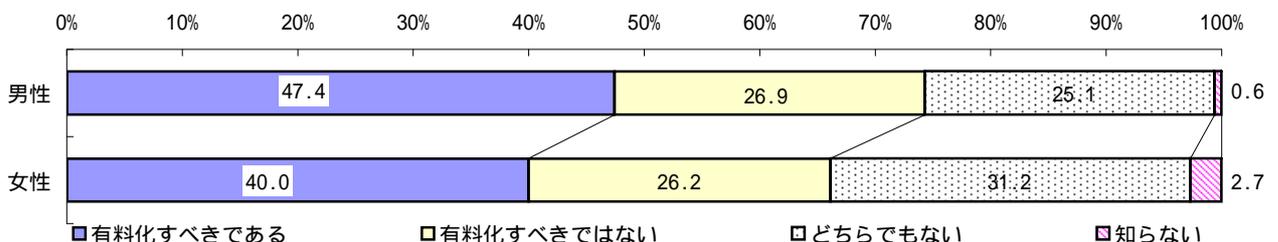
《レジ袋の有料化について》

スーパーや生協などにおけるレジ袋有料化の動きについて聞いたところ、「有料化すべきである」と答えた人の割合は43.0%、「有料化すべきではない」は26.3%となっている。



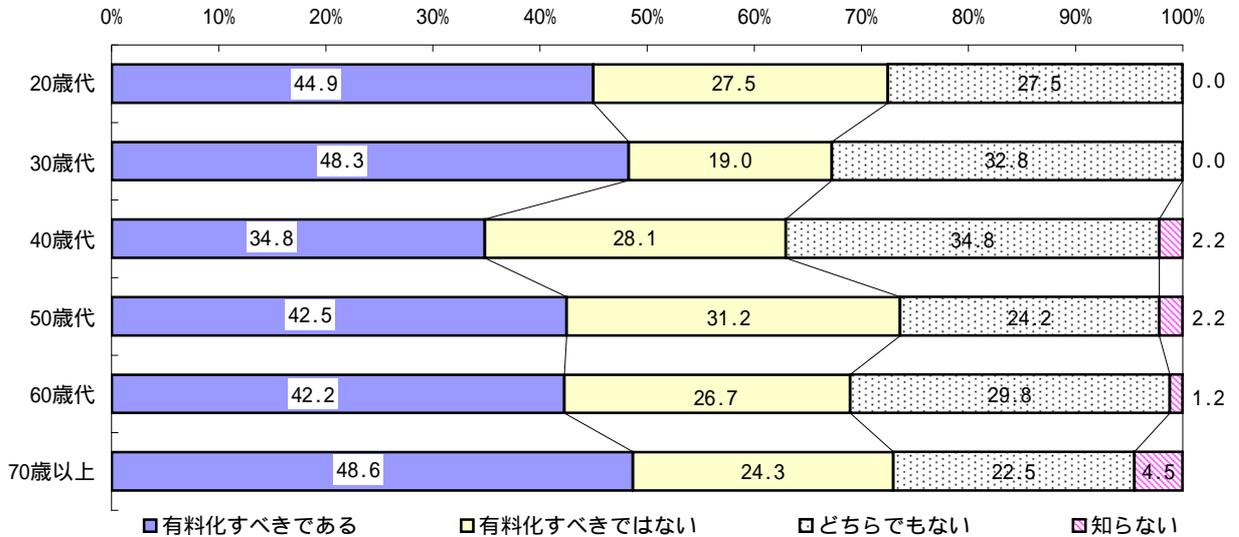
【性別】

性別にみると、男女とも「有料化すべきである」と答えた人の割合が多くなっている。



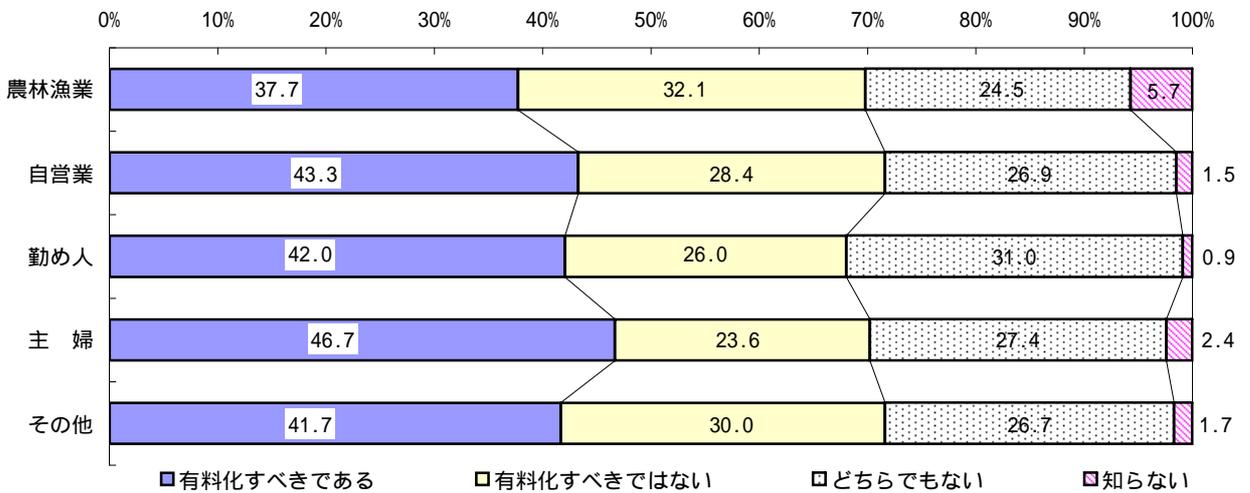
【年齢別】

年齢別にみると、全ての年齢層で「有料化すべきである」と答えた人の割合が多くなっており、「有料化すべきでない」は50歳代で、他の年齢層と比較して多くなっている。



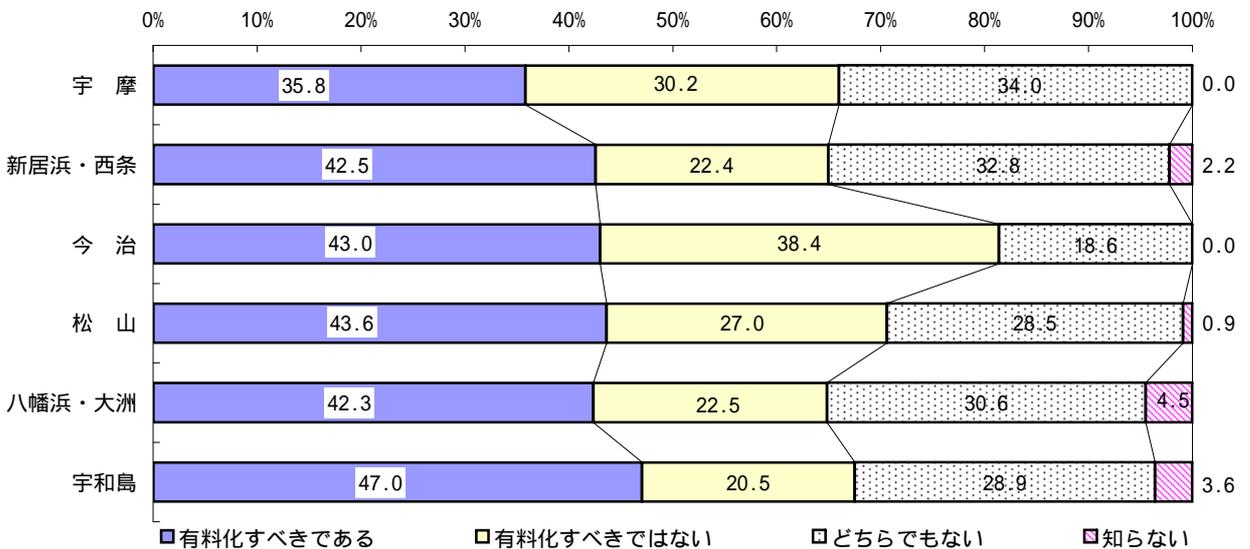
【職業別】

職業別にみると、全ての職業で「有料化すべきである」と答えた人の割合が多くなっており、「有料化すべきでない」は農林漁業及びその他で、他の職業と比較して多くなっている。



【生活圏域別】

圏域別にみると、全ての圏域で「有料化すべきである」と答えた人の割合が多くなっており、「有料化すべきでない」は今治圏域で、他の圏域と比較して多くなっている。



特定課題

問31 臓器提供意思表示カード等の普及啓発

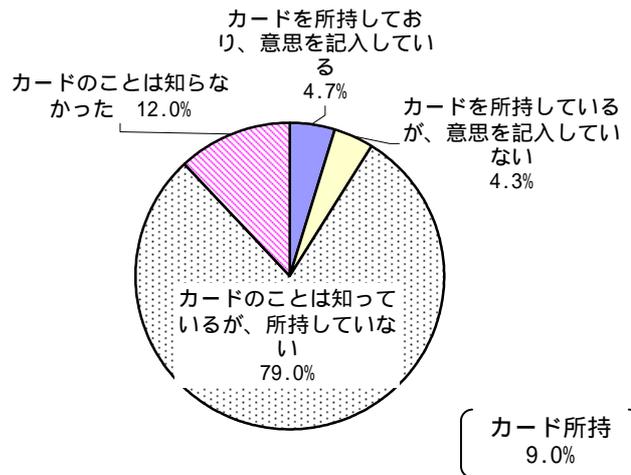
脳死又は心停止後に臓器提供を行う意思を表示する方法として臓器提供意思表示カード（シール）がありますが、あなたは同カード（シール）についてどの程度ご存知ですか。次の中から一つ選んで番号を で囲んでください。

|                               | (%)  |
|-------------------------------|------|
| 1 カード（シール）を所持しており、意思を記入している   | 4.7  |
| 2 カード（シール）を所持しているが、意思を記入していない | 4.3  |
| 3 カード（シール）のことは知っているが、所持していない  | 79.0 |
| 4 カード（シール）のことは知らなかった          | 12.0 |

仮にご家族の誰かが臓器提供の意思をカード（シール）に記入していた場合、あなたはその意思を尊重したいと思いますか。次の中から一つ選んで番号を で囲んでください。

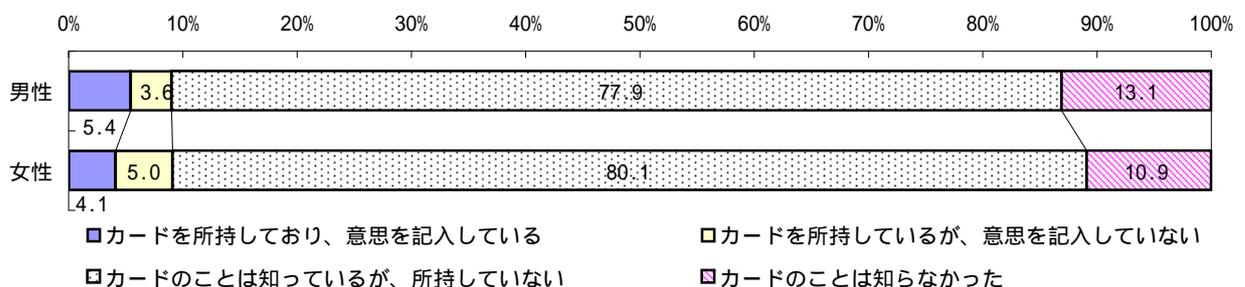
|            | (%)  |
|------------|------|
| 1 尊重する     | 30.4 |
| 2 たぶん尊重する  | 46.4 |
| 3 たぶん尊重しない | 5.5  |
| 4 尊重しない    | 2.3  |
| 5 わからない    | 15.4 |

臓器提供意思表示カード（シール）についてどの程度知っているか聞いたところ、「所持している」と答えた人の割合が9.0%〔「カード（シール）を所持しており、意思を記入している」（4.7%）、「カード（シール）を所持しているが、意思を記入していない」（4.3%）〕であり、「カード（シール）のことは知っているが、所持していない」は79.0%、「カードのことは知らなかった」は12.0%となっている。



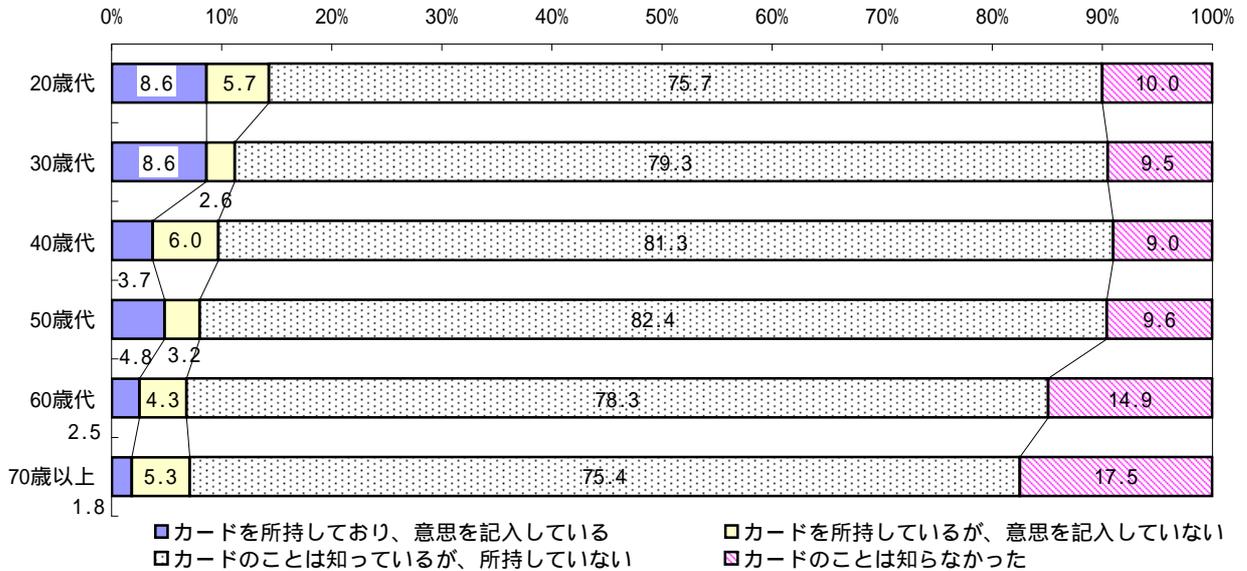
【性別】

性別にみると、「カードを所持している」と答えた人の割合は男性と女性がほぼ同じ（男性9.0%、女性9.1%）で、「カード（シール）のことは知っているが、所持していない」は女性のほうが多くなっている。



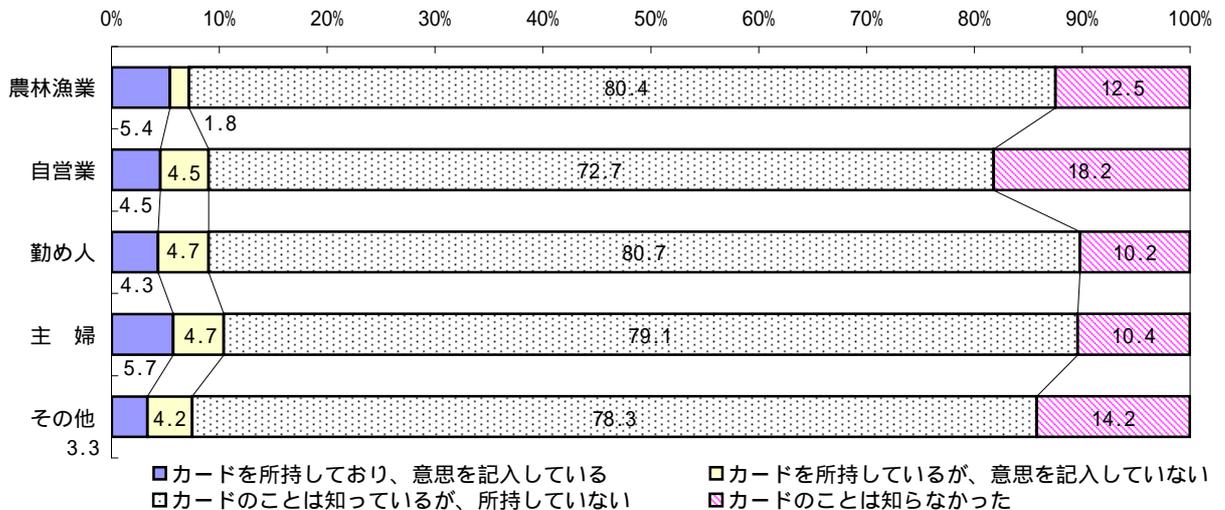
### 【年齢別】

年齢別にみると、「所持している」と答えた人の割合は20歳代及び30歳代で多くっており、カードを所持している人のうち、「意思を記入している」と答えた人の割合も、20歳代及び30歳代で多くなっている。  
また「カード（シール）のことは知っているが、所持していない」は50歳代で、「カードのことは知らなかった」は70歳以上で多くなっている。



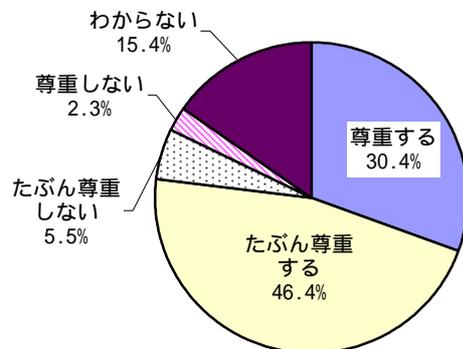
### 【職業別】

職業別にみると、「所持している」と答えた人の割合は主婦で多く、所持している人のうち「意思を記入している」は主婦及び農林漁業で多くなっており、「カード（シール）のことは知っているが、所持していない」は農林漁業及び勤め人で多くなっている。  
また、「カードのことは知らなかった」は自営業で多くなっている。



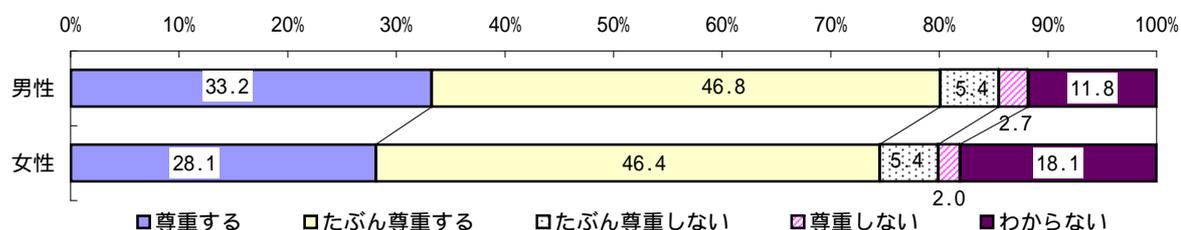
### 《家族の意思の尊重》

家族の臓器提供の意思を尊重するかどうか聞いたところ、「尊重する」と答えた人の割合は76.8% [「尊重する」(30.4%)、「たぶん尊重する」(46.4%)]であり、「尊重しない」は7.8% [「たぶん尊重しない」(5.5%)、「尊重しない」(2.3%)]となっている。



### 【性別】

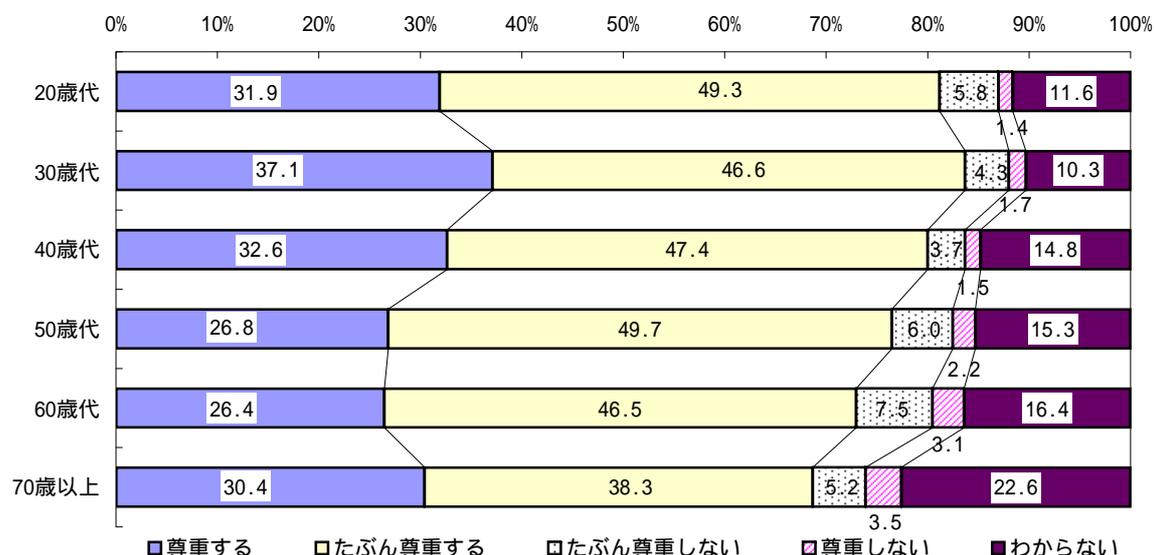
性別にみると、男女とも「尊重する」または「たぶん尊重する」と答えた人の割合が、「尊重しない」または「たぶん尊重しない」より多くなっている。



### 【年齢別】

年齢別にみると、全ての年齢層で「尊重する」または「たぶん尊重する」と答えた人の割合が、「尊重しない」または「たぶん尊重しない」より多くなっている。

また、その割合は、30歳代をピークに、年齢が高くなるにつれて減少している。



### 【職業別】

職業別にみると、全ての職業で「尊重する」または「たぶん尊重する」と答えた人の割合が、「尊重しない」または「たぶん尊重しない」より多くなっている。

また、その割合は、自営業（83.0%）及び勤め人（82.7%）で、特に多くなっている。

